



土づくりは収穫後にスタート

水稻の安定生産には土づくりが不可欠です。収穫後は、土づくりを行い来年に備えましょう。

土づくりの二本柱は、有機物の投入と作土層の確保です。

その1. 有機物を投入しよう！

理想は堆肥の投入ですが、せめて稲わらをすき込みましょう！

- ・稲わらはお手軽な有機質資材です。すき込むことで地力を向上させ、根が伸長しやすい軟らかい土をつくれます。
- ・稲わらは、腐熟を進みやすくするため、気温が高く、土壌水分も高い秋のうちにすき込みましょう。
- ・すき込み時に硫安や石灰窒素を10a当たり10～15kg(窒素成分で2～3kg)施用すると腐熟が進みやすくなります。

その他の土づくり資材

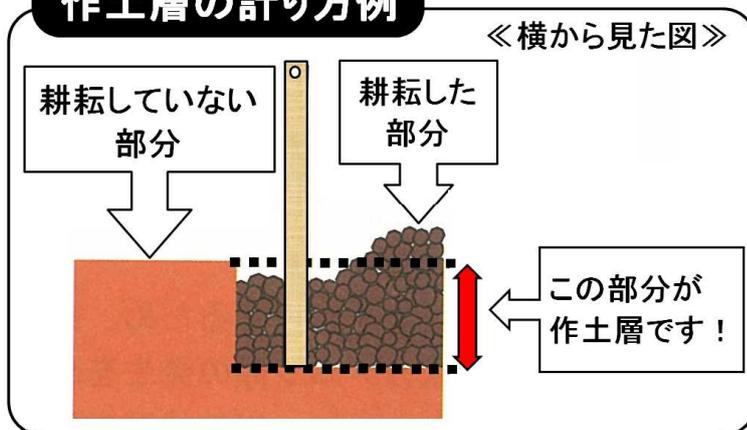
ケイ酸質資材の施用で、茎葉・根が丈夫になり、倒伏や病害虫に強い稲になります。栽培暦を参考に施用しましょう。

その2. 作土層15cmを目指し、冬田起し！

深耕すると、水稻は深く根を張り、土壌が多少乾燥しても養分・水分を取り入れることができるようになるため、高温や乾燥に強い稲になります。

なお、作土が浅いほ場の場合は、一度に深耕しすぎず、毎年少しずつ深耕に取り組みましょう。

作土層の計り方例



用意するもの

